

令和8年3月作成

# 平生町 洪水ハザードマップ

佐賀地区 保存版

洪水ハザードマップは、平生町で想定される洪水や災害が起こった時に必要な情報を示しています。いざというときに備えて、このハザードマップをご活用ください。

●わが家の防災メモ

わが家の避難場所	避難場所までの移動時間	分
家族の集合場所(避難場所と会えなかった場合)	避難時の緊急連絡先	

●家族の連絡先

家族の名前	生年月日	携帯電話番号	血液型	会社・学校などの電話番号

災害用伝言サービス 地震や洪水などの大災害発生時は、電話利用が急激に増加し、電話がつながりにくい状況が続くことがあります。このような場合は、以下のサービスが開設されます。

**災害用伝言ダイヤル 171**

災害用伝言ダイヤル(171)は、大規模な災害が発生したときの「声の伝言板」です。電話を用いて安否情報(伝言)の録音・再生を行うことができます。

171をダイヤル

録音は1をダイヤル 再生は2をダイヤル

被災地の方も、被災地以外の方も

被災地の方の電話番号を市外局番からダイヤル

伝言を入れる 伝言を聞く

**災害用伝言板(web171)**

スマートフォン・携帯電話・パソコン等から災害用伝言板(web171)にアクセスすることで、テキストによる安否情報(伝言)の登録・確認を行うことができます。

下記URLへアクセスし、案内に従って操作してください

<https://www.web171.jp/>

※上記の他に携帯電話各社から「災害用伝言板サービス」が提供されます。利用方法については各社ホームページ等で確認ください。

災害用伝言ダイヤル(171)・災害用伝言板(web171) 体験利用日

▶毎月1日と15日 ▶正月(1月1日～1月3日) ▶防災週間(6月30日～9月5日) ▶防災とボランティア週間(1月15日～1月21日)

【発行】平生町役場 〒742-1195 山口県熊毛郡平生町大字平生町210-1 TEL.0820-56-7118 (建設課)

## 情報の入手先

●平生町の防災メール配信

平生町では、広報車の巡回のほか、様々な方法で防災情報を発信しています。

**平生町防災メール(気象情報、防災情報が配信されます)**

平生町では、防災に関する情報等を登録者の携帯電話等にメールで一斉配信するサービスを提供しています。

※携帯電話、パソコンなど、メールアドレスがあれば誰でも登録できます。

●インターネットから取得

平生町役場

山口県

山口県土木防災情報システム

大内河川監視カメラ画像も確認できます。

山口県防災Web

●報道機関から取得

テレビ

ラジオ

●電話で確認

平生町総務課 (0820) 56-7111

平生町建設課 (0820) 56-7118

柳井警察署 (0820) 23-0110

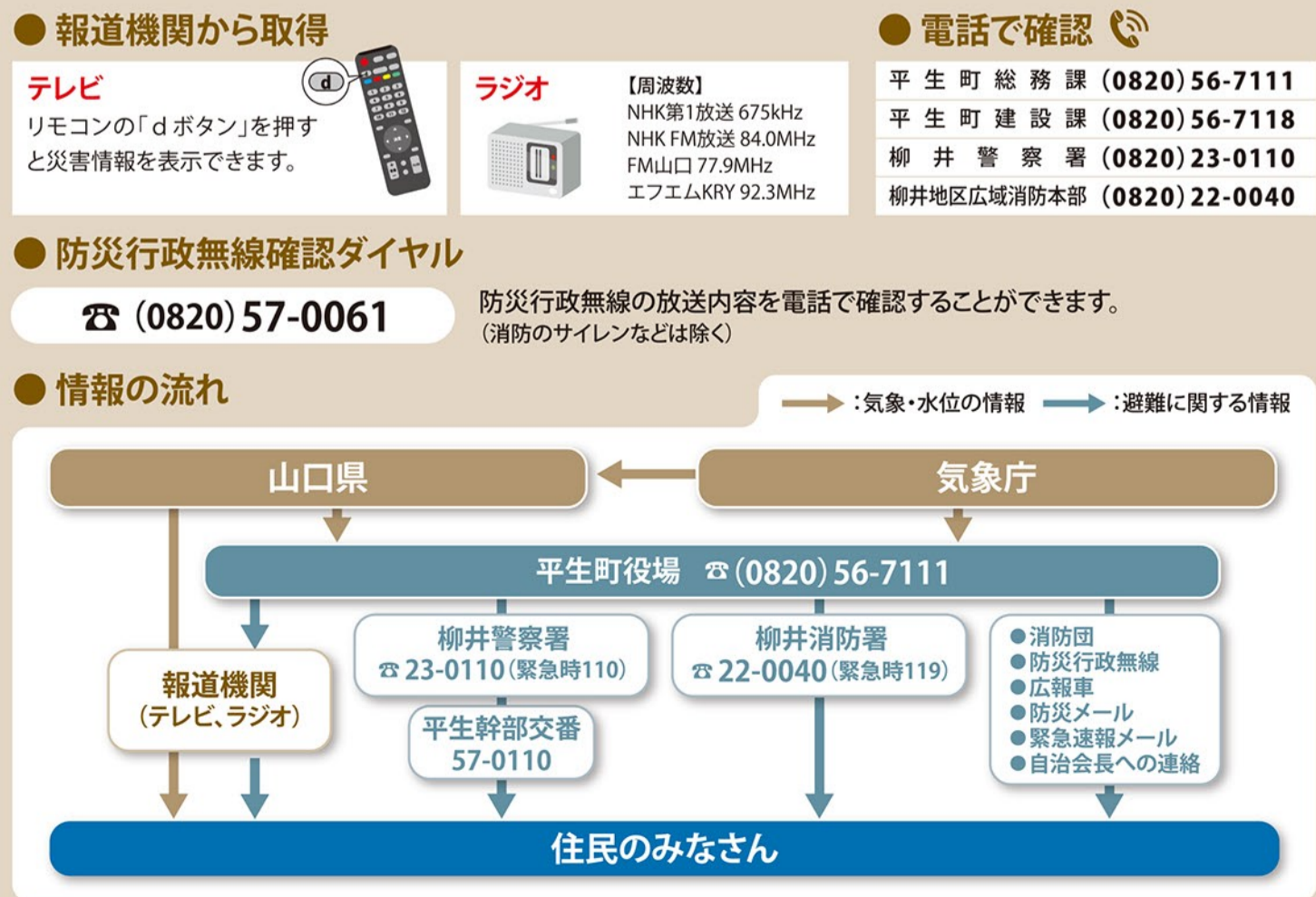
柳井地区広域消防本部 (0820) 22-0040

●防災行政無線確認ダイヤル

(0820) 57-0061

●情報の流れ

気象庁 → 山口県 → 平生町役場 → 住民のみなさん



平生町では洪水ハザードマップのほかにも、土砂災害や津波などさまざまな災害に対応したハザードマップを作成しています。町ホームページで、「防災マップ」で検索すると見ることができますので、ご覧ください。

## 安全に避難するため、警戒レベルを参考にしましょう

水害や土砂災害の危険があるときには、町から警戒レベル3「高齢者等避難」、警戒レベル4「避難指示」を発令します。町からの避難情報に合わせて、速やかに安全な場所へ避難しましょう。

●警戒レベルと、みなさんがとるべき行動

警戒レベル	状況	みなさんが取るべき行動	行動を促す情報
5	災害発生 又は切迫	命の危険 直ちに安全確保!	緊急安全確保※1 氾濫・大雨・土砂災害・ 高潮特別警報(気象庁)
警戒レベル4までに必ず避難!			
4	災害のおそれ高い	危険な場所から 全員避難	避難指示 氾濫・大雨・土砂災害・ 高潮危険警報(気象庁)
3	災害のおそれあり	危険な場所から 高齢者等は避難※2	高齢者等避難 氾濫・大雨・土砂災害・ 高潮警報(気象庁)
2	気象状況悪化	自らの避難行動を確認	氾濫・大雨・ 土砂災害・高潮注意報 (気象庁)
1	今後気象状況 悪化のおそれ	災害への心構えを高める	早期注意情報 (気象庁)

※1町が災害の状況を確実に把握できるものはない等の理由から、警戒レベル5は必ず発令されるものではありません。  
※2警戒レベル3は、高齢者等以外の人も必要に応じ普段の行動を見合わせ始めたり、危険を感じたら自主的に避難するタイミングです。

## 水平避難と垂直避難

災害では早めの避難が重要です。ただし、すでに避難経路が浸水しているなど、危険が間近に迫っている状況での無理な避難行動はできるだけ避けなければいけません。そのような場合は、避難場所への移動(水平避難)だけでなく、近隣の高い建物や自宅の2階といった高い場所への移動(垂直避難)を行い、救助を待つという判断も必要です。また、土砂災害の危険性がある地区では、屋内でも山と反対側に避難を行うことも必要です。



## 避難の心得

いざというときのために、日頃から避難に必要なものを整理し、避難の手順について話し合っておきましょう。また、災害の危険性が想定された場合には、情報を入手して、特に災害発生のおそれがある場所に居る人は、早めの避難を心がけましょう。

- 状況により、すばやく避難しましょう**  
避難情報などが発表されていなくても、状況などから判断し、自主的に避難しましょう。
- 浸水時、自動車での避難は危険**  
普通自動車は約30cmの浸水で走行困難になります。浸水時、自動車での避難は危険です。
- 浸水時に長靴は厳禁**  
避難には運動靴が最適です。長靴は水が入ると歩けなくなります。動きやすい服装で避難しましょう。
- 家族には連絡メモを残そう**  
外出中の家族には、「どこどこへ避難する」といったようなメモを残しておくとい良いでしょう。
- 地域で助け合おう**  
単独での行動は避け、近所の人たちと集団で決められた場所へ避難しましょう。
- 安全なルートで避難**  
避難先への経路は、川べりや地下歩道などは避け、できるだけ安全な広い道を選びましょう。

## 要配慮者への避難支援

要配慮者とは、災害発生時に避難の手助けが必要な人々のことです。一般に高齢者や障がい者、乳幼児や妊産婦、日本語を十分理解できない外国人などが該当します。地域で協力しあいながら、要配慮者の安否確認、避難施設への移動を支援しましょう。

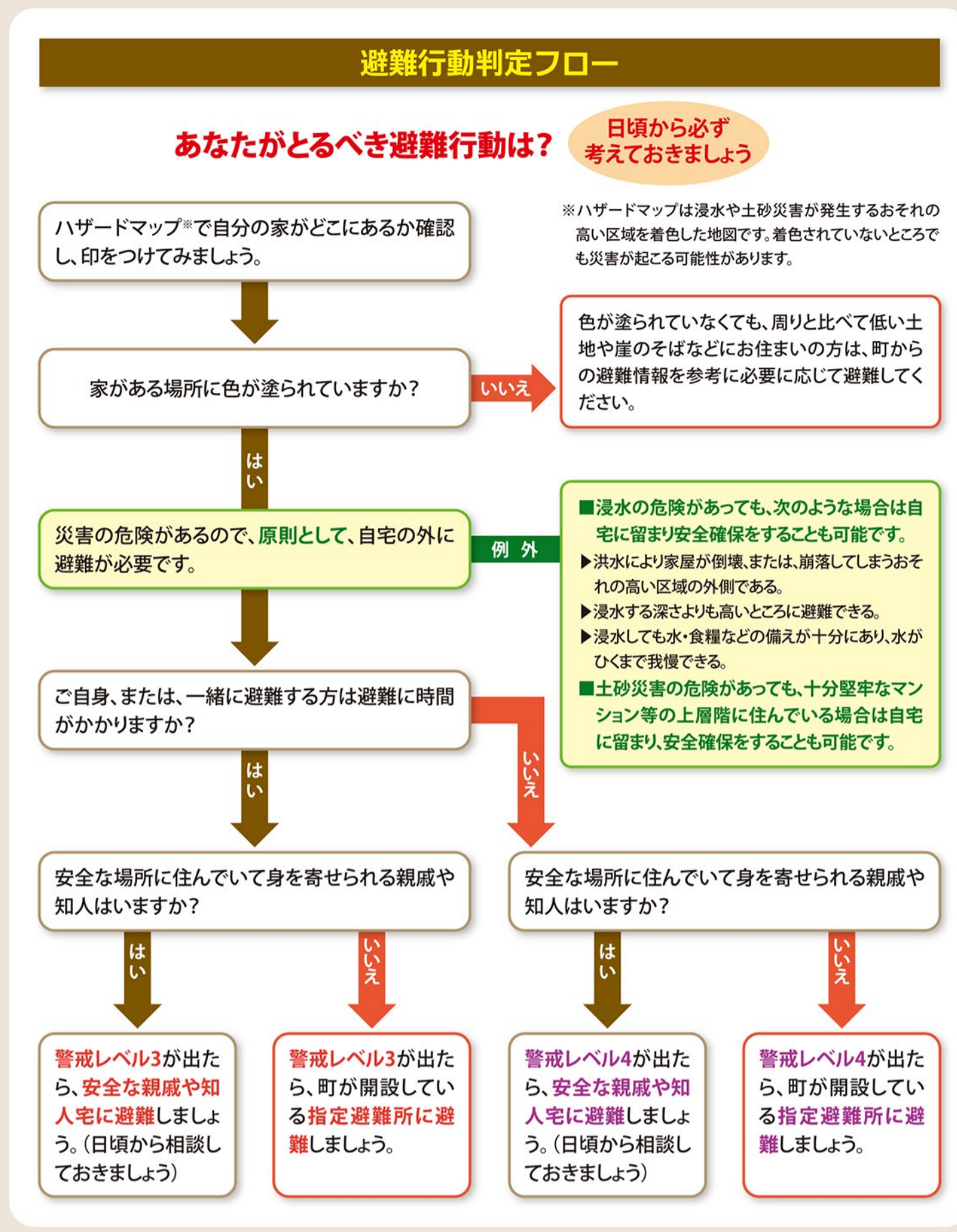
- 高齢者・病人**
  - おぶって安全な場所まで避難する。
  - 複数の介助者で対応する。
- 目の不自由な方**
  - 声をかけ情報を伝える。
  - 誘導する場合は、杖を持った方の手には触れず、ひじのあたりを軽く持つてもらい、半歩手前をゆっくり歩く。
- 肢体の不自由な方(車椅子)**
  - 階段では2人以上が必要。上りは前向き、下りは後ろ向きにして移動する。
  - 介助者が1人の場合、ひもなどを用意し、おぶって避難する。
- 耳の不自由な方**
  - 話すときは、口をハッキリと開け、相手にわかりやすいようにする。
  - 手話、筆談、身振りなどの方法で正確な情報を伝える。
- 外国人**
  - 話すときは、やさしい日本語で話しかける。
  - 身振りや手振りでも話しかけ、孤立させない。

## 防災訓練に参加しましょう!

自主防災組織などが行う防災訓練は、災害に対する意識の向上のみならず、地域で助け合う共助にもつながる大切な訓練です。訓練が開催される場合は、各種ハザードマップの内容を確認しながら、積極的に参加しましょう。

## 避難行動判定フロー

台風や豪雨時にあわてずに避難をするためには、日頃から、周囲の災害リスクを把握し、いつ、どのような避難行動を取るべきか、事前に考えておくことが大切です。台風・豪雨時に備えてハザードマップと一緒に「避難行動判定フロー」を確認しましょう。



## 風が強いとき・大雨のとき

風水害はある程度事前に発生を予測することができます。危険が迫ったら早めに避難しましょう。

- 風が強いとき**
  - 風圧や飛来物で、窓ガラスが割れ、破片が吹き込む危険があります。●外側から吹きさらし、内側から養生テープを×印に貼り、カーテンを引いておきましょう。
  - 看板が飛んだり、街路樹が倒れたりする危険があるので、近くの頑丈な建物の中に避難しましょう。●平均風速に比べて、1.5~2倍の瞬間風速に注意しましょう。
  - 転落や高波に巻き込まれる危険があります。沿岸に近づかないようにしましょう。●強風、豪雨時はサイレンなどの警報が聞こえづらくなりますので十分に注意しましょう。
- 大雨のとき**
  - 集中豪雨の頻発化などに象徴されるように、昔に比べて豪雨の発生が急増しています。
  - 車道が川のようになります。
  - 車がまたった後、立ち立たなくなる。
  - 水が濁ると、あたり一面が白っぽくなり、視界が悪くなる。
  - 急な増水や土砂の危険もあります。速やかに離れましょう。●水が濁ると流れに足をとられ、水が引かなくなるときの危険がありますので注意しましょう。●河川流域では上流側の降雨による増水に注意しましょう。

## ●雨の強さ、降り方と災害の危険性等

	やや強い雨 10~20mm未満	強い雨 20~30mm未満	激しい雨 30~50mm未満	非常に激しい雨 50~80mm未満	猛烈な雨 80mm以上
1時間雨量と予報用語					
人の受けるイメージ	●ザーザーと降る。	●どしゃ降り。	●バケツをひっくり返したように降る。	●滝のように降る。(ゴーゴーと降り続く)	●息苦しくなるような圧迫感がある。●恐怖を感じる。
人への影響と屋外の様子	●地面からはね返り足もとがぬれる。	●傘をささなくてもぬれる。●車の場合、ワイパーを速くしても見づらい。	●道路が川のようになる。	●車がまたった後、立ち立たなくなる。●水しぶきで、あたり一面が白っぽくなり、視界が悪くなる。	●雨による大規模な災害の発生するおそれ強く、厳重な警戒が必要。
災害の危険性	●この程度の雨でも、長く続くときは注意が必要。	●側溝や水路、小さな川があふれ、道路陥没のおそれがある。●小規模のけがりのおそれがある。	●山崩れ、がけ崩れが起きやすくなり、危険地域では避難が必要。	●土石流が起こりやすい。●多くの災害が発生する。	●雨による大規模な災害の発生するおそれ強く、厳重な警戒が必要。

## 非常持ち出し品の準備

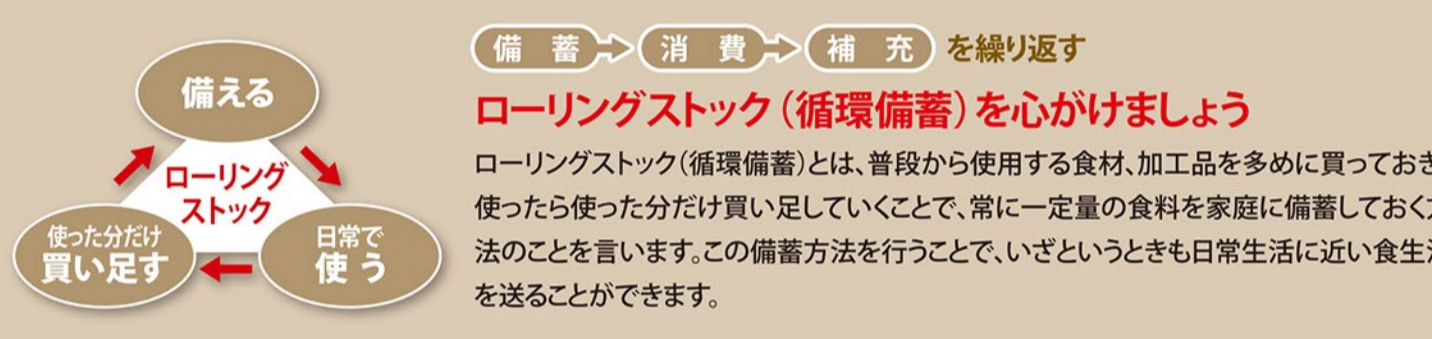
いざというときには、ただちに避難しなければなりません。そのようなときに備えて、非常持ち出し品を常備しておきましょう。

食料	救急・安全対策	貴重品
<ul style="list-style-type: none"> <li>●飲料水(1人1日2~3リットルを目安)</li> <li>●非常食(缶詰、乾パン、レトルト食品など)</li> <li>●携帯食(チョコレート、キャンディーなど)</li> <li>●粉ミルクと哺乳瓶(赤ちゃんがいる場合)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●常備薬(胃腸薬、かぜ薬など)</li> <li>●包帯、ガーゼ、ばんそうこう</li> <li>●傷薬、消毒薬</li> <li>●持病のある方の薬</li> <li>●ヘルメット、防災ずきん</li> <li>●ホイッスル</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●現金(小銭)</li> <li>●預貯金通帳、印鑑</li> <li>●クレジットカード類</li> <li>●マイナンバーカード</li> <li>●免許証など(本人確認できるもの)</li> </ul>
<p>日頃から、食料と飲料水を、備蓄品として常備しておきましょう。</p>		
衣類など	日用品など	
<ul style="list-style-type: none"> <li>●衣類(厚手の物と薄い物)</li> <li>●下着類</li> <li>●タオル、毛布</li> <li>●手袋、軍手</li> <li>●寝袋</li> <li>●雨具</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ポリ袋(ビニール袋)</li> <li>●新聞紙</li> <li>●ろうそく、ライター</li> <li>●ナイフ、缶切り</li> <li>●ティッシュペーパー</li> <li>●ウエットティッシュ</li> <li>●懐中電灯(予備電池)</li> <li>●携帯ラジオ(予備電池)</li> <li>●携帯電話(充電器/バッテリー)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●筆記用具(油性マジック)</li> <li>●洗面用具</li> <li>●メガネ</li> <li>●マスク</li> <li>●使い捨てカイロ</li> <li>●紙おむつ</li> <li>●生理用品</li> <li>●体温計</li> <li>●布製ガムテープ</li> <li>●ロープ</li> <li>●地図(ハザードマップ)</li> </ul>

## 備蓄品の準備

日頃から、7日分の食料と飲料水を備蓄品として常備しましょう。

食料	燃料・日用品など	
<ul style="list-style-type: none"> <li>●飲料水(1人1日3リットルを目安)</li> <li>●米(缶詰やレトルトのご飯なども便利)</li> <li>●缶詰や菓子類</li> <li>●粉ミルク・離乳食(赤ちゃんがいる場合)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●カセットコンロ</li> <li>●予備のガスボンベ</li> <li>●毛布または寝袋</li> <li>●ブルーシート</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●割り箸</li> <li>●衣類</li> <li>●新聞紙</li> <li>●簡易トイレ</li> <li>●布製ガムテープ</li> <li>●キッチン用ラップ</li> <li>●なべ</li> </ul>



## 風水害への備え

台風や大雨などによる被害を最小限にとどめるために、日頃から家屋やその周囲の点検・修理・補強を行い、十分な風水害対策を講じておきましょう。

- 外壁**
  - 外壁に亀裂はありませんか
- 屋根・雨どい**
  - 不安定なアンテナはありませんか
  - トタンがめくけていませんか
  - 瓦のひび・割れ・はがれはありませんか
  - 雨どいにゴミや木の葉は溜まっていませんか
- ベランダ**
  - 植木鉢や干し草など、落下や飛散の危険はありませんか
- ブロック塀**
  - 傾きやひび割れ、破損している箇所はありませんか
- 板塀**
  - 板間に腐りや浮きはありますか
  - 板間に支柱はありますか
- 排水溝**
  - 側溝や雨水ますにゴミや土砂はありませんか
- 窓**
  - 窓枠のがたつきはありませんか
  - 雨戸にがたつきはありませんか
- その他**
  - ガスボンベ(プロパンガス等)は固定されていますか
  - 商店などで看板のぐらつきはありませんか
  - ゴミ箱や植木鉢などは、飛ばないように固定されていますか
  - 庭木には添え木をしていますか
  - 窓ガラスが飛散しないよう対策をしていますか

## 家庭でできる簡易水防

浸水が浅い場合には、土のう(無い場合は水のう)を設置することで、水が建物へ浸入するのを防げます。簡易的な措置として、植栽用プランターや石油用ポリタンク、長めの板(はしごやテーブルでも可)などを、ビニールシートで包んで設置してもよいでしょう。道路よりも建物が低い場合や、地下室がある場合などは、止水板を設置しておく、より効果的です。

**簡易水防工法例①**  
プランター+ビニールシート

土を入れたプランターをビニールシートで巻き込んだものを使用し、浸水を防ぎます。

**簡易水防工法例②**  
簡易水のう+止水板

簡易水のうを作り、長めの板と組み合わせて出入りに設置し、浸水を防ぎます。

**「簡易水のう」の作り方**

家庭で使用しているごみ袋(40リットル程度の容量)を二重にして、中に半分程度の水を入れて閉めます。